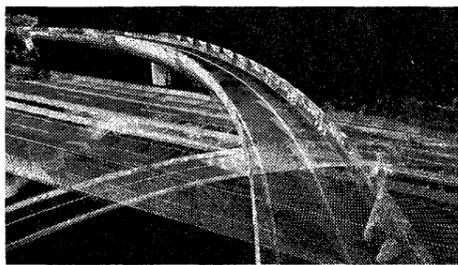


高速道の3D情報提供

9000km超す収集完了

パスコ、朝日航洋

パスコと朝日航洋（東京都江東区、立野良太郎社長）は、モバイル・マッピング・システム（MMS）を使って取得した高速道路の3次元空間情報を公共機関や民間企業に提供する新事業を開始する。既に東日本など四つの高速道路会社が管理する9000km超す道路のデータ収集を完了。7日から前方2方向、3次元レーザー点群、全周囲という3種類のデータの販売を開始する。



MMSで収集・処理した高速ジャンクションの点群画像
既に関東、西日本の各高速道路会社と、本州四国連絡高速道路会社が管理する高速道路のうち、約99%に当たる

販売するデータは、道路インフラの状況把握、補修計画の立案など施設・資産の維持管理に活用できるほか、自動車の自動運転や運転支援など次世代技術にも応用できる。提供前から共同で進めていた高速道路の空間情報について外販事業の展開を検討していた。

9190km²の3次元点群データ、天頂を含む360度の全周囲画像データ（200万画素）の3種類。三つのデータを一括する場合の価格は1km²当たり2万8000円で、前方2方向画像と3次元点群データの組み合わせが同2万円、全周囲画像データのみが同

1万円となっている。東名高速道路の横浜町田〜厚木インターチェンジ間約15km分の3種類のデータを購入した場合の価格は42万円になる。データの相対精度は平面位置と高さでそれぞれ10mm、高さ15mm。極めて精度が高く、レーザー点群データ情報に画像から抽出した色情報を加えれば、仮想空間の表現力が向上する。高速道路の路面やトンネル、標識など施設や資産の位置を正確に把握する

1万円となっている。東名高速道路の横浜町田〜厚木インターチェンジ間約15km分の3種類のデータを購入した場合の価格は42万円になる。データの相対精度は平面位置と高さでそれぞれ10mm、高さ15mm。極めて精度が高く、レーザー点群データ情報に画像から抽出した色情報を加えれば、仮想空間の表現力が向上する。高速道路の路面やトンネル、標識など施設や資産の位置を正確に把握する

【建設ICT】

- | | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 1. 日経 | 2. 朝日 | 3. 毎日 | 4. 日経 | 5. 朝日 | 6. 毎日 |
| 7. 産経 | 8. 読売 | 9. 伊勢 | 10. 中部 | 11. 建通 | 12. 日刊 |
| 13. 建設 | 14. 信濃 | 15. 日本 | 16. 建設 | | |

平成25年11月6日(朝)・夕) P3